
神の気まぐれと一方通行

紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の気まぐれと一方通行

【Nコード】

N59430

【作者名】

紅

【あらすじ】

鋼殻のレギオスの世界にもしも神の気まぐれで一方通行アクセラレータが迷い込んだら？

というお話です。

（前書き）

思いつきで書いてしまった作品ですので、あまり期待しないでください。

それでも、楽しく読んでいただければ幸いです。

一五、六歳の少年がある世界を歩いてきた。針金のように細い体、少女のような繊細な肌に白い髪の少年が。

「畜生。ここはどこだつてのっ!？」

俺は数分前に“神”と名乗る奴と出会った。つで、その神が『キミには僕の暇つぶしに鋼殻のレギオスの世界に行ってもらうよ。まあ、安心しなよ。少し経ったら元の世界に戻してあげるからさ。それと鋼殻のレギオスの世界にいる間、キミの周りからは絶対にどんなことがあっても酸素が無くならないようにしとくからさ。つてなわけで、行つてきてよ』

と、言つた瞬間俺の体が光り出し、次の瞬間にはもう、俺はおかしな世界に移動させられていた。

一方通行は鳥や虫と言つた生物はおるか草も木もない世界を歩いていた。

『バサバサ』

突如、空から巨大な翼が羽ばたくような音が聞こえた。一方通行アクセラレータは上空を見上げた。

そこには大きな殻に羽以外が覆われていて、大きい頭部には赤い複眼ばけものがあり、二つに分かれた顎が絶息を零すように動いている奇妙な生物の姿があつた。

一方通行は驚く様子もなく尋ねる。

「何なんだア？ テメエは？ 誰に牙剥きはむいてつか分かつてるのか

ア？ 学園都市でも七人しかいねエ超能力者レベル5、さらにその中でも唯ゆい無いっむに二の突き抜けた頂点いつむにつて呼ばれているこの俺に

一方通行は一旦口を閉じ、再び開いた。

「ここまで言つてあれだが、人間の言葉なんか分かりそうにねエなア。つつても、たとえ人間の言葉が分かるとしても、なに言つてるかわからねエか。ここは違う世界らしいしな」

「ギイイイイイイイイイイイイイイイイッ！！」

上空にいた生物がいきなり生き物とは思えない雄叫びをあげ、一方通行に迫る。そして、生物が一方通行の体表面に触れた。

瞬間、生物が弾け飛んだ。生物の血が雨のように降り注ぐ。だが、一方通行は微動だにしない。全ての降り注ぐ血の向きを変えているのだ。

全ての血が地面に降り注ぎ終わると一方通行は生物の死骸を眺めながら口を開く。

「お前も不幸だなア。殺りに着た瞬間、逆に殺られるとはなア！」
一方通行はそう言い捨てると、再び歩き始めた。

歩き始めてからどれぐらい経ったか分からない。いつの間にか陽が沈み、夜になっていた。

「クソッ！ どんだけ歩いてても、人が見当たらねエ」
そう一方通行が呟いた時だった。前方に多くの赤い光が灯っていた。

「人か？」
一方通行はその赤い光の方へと近寄った。すると、そこには恐ろしい光景が出来ていた。

人と先ほど一方通行を襲った幼生みたいなものが戦っていたのだ。人は生物の向こうにいるので良くは見えない。

時折聞こえる悲鳴が暗闇の世界に響く。
「なんだア？ 一体何をやってるんだア？」
一方通行はより人と生物に近寄る。

どんどん近付き、そこでやっと空と地上が生物でいっぱいになっている事に気づく。

「何の悪夢だこりゃア？ 俺はどんな世界に迷い込んだんだったア？」

そう言いつつも、一方通行は足を止めない。一方通行は生物を掻きわけるようにして前に進んでいく。

しばらく進むと、人の姿がはつきりと見えた。それは逆に向こう側からも一方通行が見えるようになるということだ。

当然のことのように一方通行に人が気付いた。

『おい、お前は一体何をやっているんだ!?』

『き、キミ、早く逃げるんだ!』

『早くこっちに来い!』

口々に一方通行をその場から離れさせようとする。つが、一方通行は逃げない。逃げる必要が無いのだから。

そんなアクセラレータに数匹の生物が襲いかかる。それに釣られるようにして、一匹また一匹と地上と上空からどんとどんと生物が一方通行に襲いかかる。数は一〇〇〇を軽く超えている。最初の数匹が一方通行の体表面に触れた。

瞬間、先ほどのように生物が弾け飛んだ。そして、釣られるようにして襲いかかった生物も次々に弾け飛ぶ。

一瞬にしてこの場にいた生物が死に、代わりに血の雨が降り注ぐ。

血の雨は一方通行以外のものを全て緑色に染める。

一方通行は血の雨を反射しながら人々に近寄ろうとした。

瞬間、一方通行の体は光に包まれたのだ。そして、徐々に意識が遠のく。

「ん? ここは?」

一方通行が目を覚ますと、見慣れた天井が目に入った。

「どうやら、戻ってきたらしいな。二度とあんな世界には行きたくないな」

こうして、一方通行の摩訶不思議な体験は終わったのだった。あれ? 体験だったのか?

(後書き)

読んでくれた方ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5943o/>

神の気まぐれと一方通行

2010年12月19日00時00分発行